

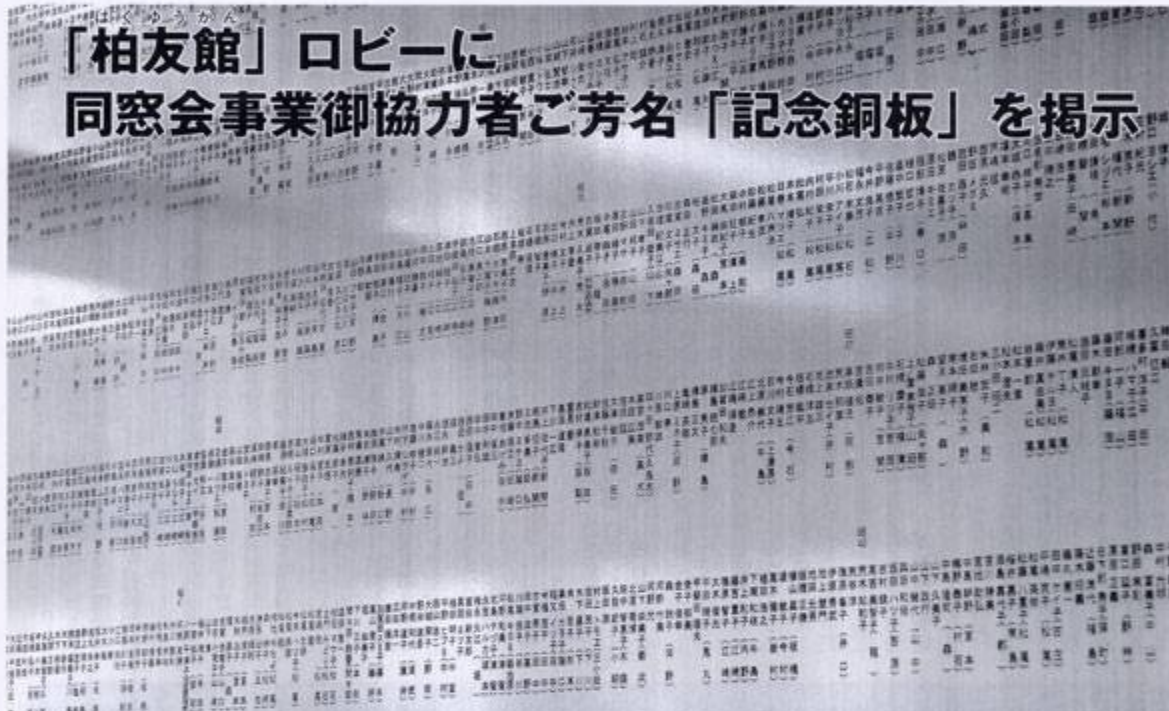
福岡県立山門高等学校



# 同窓会だより

2007.3.1

第10号

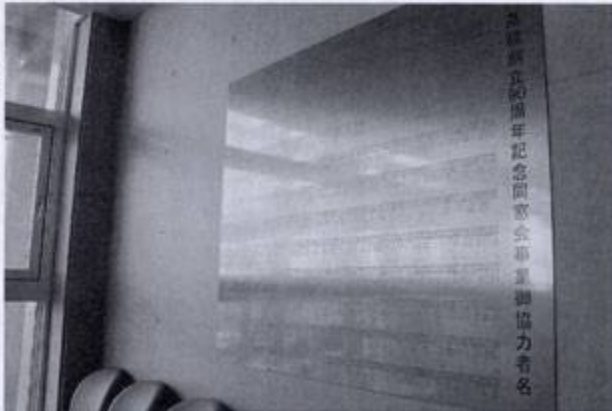


## 「柏友館」ロビーに 同窓会事業御協力者ご芳名「記念銅板」を掲示



福岡県立山門高校同窓会

平成 18 年 4 月 16 日、東京「九段会館」に於、県立山門高校同窓会関東支部総会が開催されました。当日は、関東支部長の古賀誠代議士を囲み、母校より古賀俊一校長、同窓会本部より板橋会長、鹿田副会長 2 名が出席しました。およそ 100 名程の出席があり、大変なごやかな同窓生の集いとなりました。



▲ 創立 90 周年記念銅板

山門高校創立 90 周年記念事業「柏友館」・「記念庭園」の建設につづき、記念事業御協力者 2,580 人のご芳名を刻字した「記念銅板」を柏友館ロビーに掲示しました。  
(平成 18 年 5 月 3 日 募金総額 31,860,712 円)



山門高校同窓会  
会長  
板橋 一元昭

新しい年を迎え同窓会の皆様にはお元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

今春の卒業式も目前に迫りました。昨年の春、久しぶりに三名の九州大学合格者を出すことが出来た私達の母校山門高校は、赴任三年目の古賀俊一校長先生を中心に、今年は昨年より更に良い成果を挙げたい、と気迫あふれる指導が続けられています。卒業を迎える三年生の皆さんにはしっかりと頑張っていたくよう切望します。

「同窓会だより」を創刊したのは平成十年でした。当初は年度初めの四月一日発行でしたが、卒業式の日に卒業生の皆さんに手渡せるようにとの配慮から第三号から三月一日発行となりました。早いもので今年も創刊以来十号の発行となります。

近年、大学に於てはホーム・カミング・デーなる催しが行われています。私の母校では卒業後二十五年目、三十五年目、四十五年目、五十年目に案内をいただくことになっており、昨秋私は卒業後四十五年目の招待を受けました。久しぶりに母校で旧友と交るのを楽しみに出席しました。記念式典のあと、私達の在学中から建つて



いた講堂の前に集合し、準備された料理や飲み物を楽しみながら、学園内を散策しました。そして入学時間じくラスだった同級生が当時のままの教室に集まるというのでそこに向きました。約四割に相当する二十名程が集まりましたが、既にリタイアや組もあれば世界を股にかけて活躍中の実業界の人物や、経済新聞に週一回投稿を依頼されている経済通の人物等がいて、人生様々の色模様を感じる楽しい集いでした。

卒業後に母校を訪ねて、旧交を温めつつ人生の歩みを振り返る、大変意味深いものであります。私達の母校山門高校の同窓会も歴代校長先生をはじめ教職員、事務職員の皆様のご理解とご協力のお陰で今日迄学校内で開催できていたでいてあります。昭和五十五年度までは校内の食堂に於てさきやかに行われていましたが、昭和五十六年度の総会からは担当学年となった昭和三十四年卒の皆さんの大奮闘のお陰で体育館を使つての大同窓会となりました。それ以来今日まで二十六年間続いてきました。

総会、講演会、懇親会と三部の行事を行いますので学校側にご迷惑をおかけしている点多々ありますけれども、良くご協力いただいていること、又、担当学年も毎年最大限配慮をして世間の批判を受けることがないようにつとめていくこと、そのお陰で今日を迎えているといえます。

福岡県内の県立高校で同窓会総会が行われている例は外にない様に思っています。

お陰様で年々参加者も増えてきてまして今は千人を超える同窓生の集いになりました。これも母校の体育館を使わせていただく賜で、一年一回母校を訪ね旧交をあたためる機会となることによると思えます。

自分が歩んで来た道は振り返ることは出来ても変えることはできません。

多感な高校時代を過ごした母校山門高校を同窓生皆で大事にしなから後輩達の元気な姿に夢を馳せてゆきたいものと思えます。

## ご挨拶



山門高校  
校長  
古賀 俊一

同窓会会員の皆様には、日頃から母校の教育の充実・振興のために格別のご支援・ご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

皆様のご尽力により立派に完成致しました同窓会館「柏友館」は、お陰様で同期会の会合などをはじめとしまして、本校の教育活動に活用させていただいております。併せて開館しました図書館も、明るくなり多くの生徒たちの読書の場になりつつあります。学校で実施しています、朝の十分間読書とあわせまして、本離れ、活字離れを食い止めることができればと願っています。

また、正門右手の記念庭園は生徒をはじめとして学校を訪ねていた

だく方の安らぎの場となっておりますし、進入道路の拡幅は、バスなど大型車両等の出入りに支障をきたさなくなり、修学旅行や、文化行事などの学校の諸行事が円滑に行われるようになりました。これらのことは偏に同窓会のご支援のたまものとありがたく思っております。

本校では「第一希望での進路実現」を継続的な教育重点目標に掲げ「文武両道」の教育方針に従って教育活動を展開しております。学校規模は各学年五学級、全校生徒の規模は六〇〇名となりました。二年目になります。生徒たちのほとんどは進学希望で、先生方の指導によくついていき、昨春、平成一七年度の卒業生（平成一八年三月卒業生）は久しぶりに九州大学に現役で三名合格するなど国公立大学合格者の増加に繋がり、着実に成果が上がっております。平成一八年度の今年も、大学入試センター試験受験者は一四七名と昨年より三〇名近く増えており、その結果を期待しているところでです。

また、主な学校行事を紹介いたしますと、第一学期は、歓迎遠足と文化鑑賞（福岡の能楽堂で、狂言の鑑賞）、第二学期は体育大会及び文化発表会、そして、第三学期は二年生の修学旅行（理数コースは東京研修を含む）とマラソン大会（矢部川周回コース）を実施しています。この学校行事を実施して思いますが、本校生は何事にも真摯に取り組みと行うこととす。そのことは、本校生を見かけられ

た一般の方々の高い評価に繋がっていると思えます。

特に修学旅行ですが、長野県志賀高原の発着温泉でスキー研修をはじめ四年度ですが、生徒諸君は口々に研修が楽しいと申しますし、研修前と終了時の校歌斉唱では、後者で格段に大きい声で歌います。また研修期間に病気で通院するために山を下りた生徒は皆無です。同行の看護師さんは感激されて、わざわざ礼状をいただきました。引率者として、ありがたいことだと思っております。これらのことから、教職員が生徒諸君に愛着を持って接しており、「厳し中にも温かみのある親身な指導」が生きています。左だと考えております。

しかしながら、本校を取り巻く現状は誠に厳しいのがあります。本校の通学区（第十一、十二学区）内の中学校卒業見込み者数は現在の三千数百名から、少子化傾向で減少傾向にあります。このような中、地域や同窓生の皆様のご支援をいただき、他の普通科高校とは一線を画した本校の特色化を継続的に図っていく必要を感じております。

本校では普通科の中に定員二十名の「普通科理数コース」を持っており、本校活性化の核として難関理系の大学を目指すべく独自の行事を構築しています。この理数コースの教育活動の紹介は、平成十八年度「教育福岡七八月号」で、「山門高校の特色ある学校教育活動」として紹介されました。今年「理数コース」で、日本科学未来館泊三日」では、日本科学未来館

の他、壇一男さん(53卒)・伊藤和幸さん(56卒)のご尽力で、清水建設株式会社技術研究所・筑波大学遺伝子実験センターやブラズマ研究センターを、見学研修させていただきました。国立オリンピック記念青少年総合センターでの先輩による講話、ようこそ先輩では、日本IBM勤務の近藤一平さん(54卒)にコンピュータプログラムなどの有益な話をいただきました。このように外部からの刺激をいただくとともに、土曜に実施しています特別授業「わくわくドキドキ講座」を活用して、将来への夢を見だし、強い意志を持って努力する生徒の育成を図りたいと考えております。

同窓会の皆様には、本校のおかれております状況をご理解いただき、理数コースを中核とした学校活性化の取組に、ご理解とご支援を切にお願ひ申し上げますとともに、同窓会のみならずの発展を心からお祈り申し上げ、ご挨拶いたします。

## 平成十八年度 同窓会総会を終えて

副実行委員長 五十平 宮崎 一誠

なにはともあれ、無事に終わり、燃え尽きました。いろいろとお世話になった関係者の方々、ありがとうございました。

個人的な目標として、面白いドキュメンタリービデオに仕上げることをゴールに設定しました。その楽しい場面を想像することをエ

ネルギーにし、なんとかなるさ、と楽天的に考えることで乗り切りました。全力でできるだけのことをやろう、それでだめならその時は評価に甘んじるしかないと思いをくくりました。何にもまして、みんなの協力が一番の励みになりました。ぶっつけ本番で、どんな結果になるのかは、当日まで予想だにできなかったからです。



電話をして「忙しい、云々」といわれた時は、「俺は忙しいけどでも思ってるのさ」と受話器を投げつけたくなり、協力を得られない時は気持ちが落ち込みました。しかし、みんなが当日予想外にたくさん集まってくれたことに感激しました。みんなから少しずつ愛をいただいたように感じます。同級生の皆さんにはひとりずつ手を握ってあげたいと言いたいくらいでした。大人になつてから、こんなに感動したのは久々ではなかったでしようか。また、遠方に住んでいて参加できなかった方からも有形無形の援助を受けています。なにしろ、ありがたいという気持ちで満たされながら感動していました。

それに、人間観を深めるよい機会になりました。一年間の活動のなかで、新しい人間関係が生まれました。旧友の学生時代とは異なる人間性の一面も、成長も知ることができました。

また、プログラムの開設で、海外に住んでいても情報を共有することができるようになりました。将来にわたって、様々な使い道が考えられます。

これまで「同窓会」は実感を伴わない遠い響きでした。自分に関係ないと思っていました。昔の人間関係だと思っていたからです。ですが、そうではありませんでした。未来に向かっていくだけでも開かれていたのです。たとえば、同級生のこれまでの人生経験や知識をベースに集まってプロジェクトを組めば、何だつてやれてしまうくらいのパフォーマンスがあります。また、豊かな人間関係という意味では、仕事以外の人間関係をどれだけ持つかも要素となりまじょうが、その点、簡単にうち分けられる友達がたくさんいて、あたたかく迎えてくれます。ほとんど話をしたことがない人とも、普通に会話できてしまうところが不思議で、とても楽しく心地よい空間が共有できます。人間死ぬときにはお金も、モノも持つていくことができません。思い出は持つていくことができます。同窓生の先輩方との交流もひとつの楽しみです。

交流の場としての同窓会の発展をお祈りいたします。



# 新名物先生

その②



中狭孝教先生

私達昭和五十九年卒の時、学年主任として導いて頂いた中狭孝教先生です。先生はご退職後、専門学校の顧問を二年間務められた後、平成十一年六月より潮高町の教育長を務められています。

### 山門高校に就いての思い出は?

私は昭和52年に山門高校に着任しました。山門高校の生徒は前から聞いていたけれど、良く努力をする生徒であり、それも先生と生徒が一体となつてがんばっている学校であり、先生達の熱意が高く生徒達もよくついてくると印象がありました。私も「山門魂」というものを台言葉にがんばってきました。生徒、保護者、地域の希望は自分の目指す進路希望の表現にありました。

当時の校長先生から学年主任を任されて「規律と友情の体験学習」で長野県に初めてスキー研修を行いました。自然にふれさせるのを目的として心の教育を目指したのが一番に印象に残っています。当時のホテルから札幌正し学校だとほめられたことは、急につくられたものでは、歴史と伝統においてつくられたものと思えます。

また二年次の時に九重へのキャンパスに行ったことです。キャンパスファ

イヤーや翌日の朝早くから、来光を見に行くために、早朝登山を行ったことが印象に残っています。

### 生徒の進路実現に必要なことは?

今は生徒数も減ったが、当時のクラスは8クラスあり三年生はそれぞれ文系・理系・などのコースがあった。それぞれ担任の先生を中心に生徒達が一生懸命努力をしてきた。私は当時日本史を教えていたが、放課後も夜遅くまで補習を行っていました。それも山門高校に対する誇りをもつてやってきたつもりです。

### 今後の抱負は?

現在の教育問題は大変厳しいものとなっています。特にいじめ問題においては尊い命が無くなっていることが残念でなりません。いじめは絶対にやってはならないという認識と共にそういう社会をつくっていききたいものです。公教育とともに家庭教育は車の車輪であると感じ、また連携していくことが、大切であると思えます。

### 在校生の皆さんにメッセージ

山門高校は普通高校であるので自分の進路実現にむけて努力をしてもらいたい。将来の目標に向かってがんばって下さい。

取材：石橋元康(五十九年卒)

# 平成十九年度 同窓会総会に向けて テーマ「つどい 語らい 絆びあう」



実行委員長  
昭和六十年卒  
大久保佳史

## 行列のできる同窓会

同窓生の皆様方におかれましては益々ご健勝のことと拝察いたします。

平成十九年度の同窓会総会は、昭和六十年卒業の私どもが担当させていただきますことになりました。人生の節目でもあるこの不惑の年に、今日まで連綿と受け継がれてきたこの歴史と伝統ある山門高校同窓会の総会運営の大役を引き受けさせていただきますことに対し感謝申し上げます。

「つどい 語らい 絆びあう」行列のできる同窓会」これが本年度の同窓会総会のテーマです。

同じ字で苦楽をともにした者たちは一堂に「集い」旧交を温めるのは勿論のこと、世代の違いはあれ再び同じ空間で互いに「語りあう」ことにより、「絆」が深められていくのではないかと。また、そのような出会いの場を提供することにより、この栄えある山門高校同窓会の歴史の一環を築き上げ、さらには同窓の輪の一層の広がりに多少なりとも貢献できるのではとの思いからこのようなテーマにさせていただきます次第です。さて、会の内容に関しては、昨年度同様、第一部の同窓会総会、

第二部の記念講演、第三部の懇親会の三部構成で計画しております。

特に、第二部における記念講演の講師には、日本テレビ「行列のできる法律相談事務所」のほか、「やじうまプラス」「TVタックル」「ゴザンデー」など、多数のテレビ番組に出演され、国民的にも非常に人気の高い、丸山国際法律特許事務所代表の丸山和也（まるやまかずや）氏をお招きいたします。

丸山先生は平日より「頭で考えるだけでなく、人間も生き物なのだから、生きた細胞で考え行動するべきだ」「法律に魂を込めるのは人間の情だ」という信念のもと、心のふれあいが乏しくなりつつある現代社会の様々な問題解決に熱心に取り組んでおられます。また、多くの人々に勇氣と感動を与えたあの二十四時間TVでの奇跡の力走は、今でも記憶に新しく、御承知の方も多いかと思えます。

先生は講演活動にも積極的に行り組んでおられ、常識にとられない一風変わった法律解釈をベースに、ユーモアも交えながら分かりやすく話をされるということで、関係各方面より高い評価を受けておられます。

今回は「人生は気合いでコントロール」丸山流生き方のススメ」と題し講演をしていただくことになっております。丸山先生ご自

身の今までの弁護士活動から得た人生訓を、持ち前の気さくで人情味あふれる人柄で思う存分語っていただけるのではと大いに期待しているところであります。

第三部の懇親会は、昨年度担当された昭和五十九年卒業の先輩方の素晴らしいアイデアを踏襲させていただきます。本年度につきましても、趣向を凝らしたアトラクションをふんだんに織り交ぜながら、皆様方に癒しとリフレッシュできるように明日への活力を提供できるように、真心こもったおもてなしを心がけていきたいと思っております。

現在私どもは、先輩方の取り組みを参考にさせていただきながら、お世話になった母校への恩返しのためにも、同窓会総会の本番当日に向け、仕事、家事、育児の時間の合間を縫いながら鋭意準備に努めているところであります。

最後になりますが、山門高校同窓生の皆様方が、今後も社会のいたる所で活躍されますことを祈念するとともに、五月三日の同窓会総会では、まさにテーマの如く「行列のできる同窓会」となりまして、一人でも多くの方々のご参加をスタッフ一同心よりお待ちしております。



丸山和也氏

## 進路状況

進路指導主事 木本 和宏

同窓生の皆様方には、日頃からご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

今の高校生の周りには、十年前には考えられないほどの進路に関する情報が溢れています。しかし、何が何でも志望校に合格する」というひたむきさは逆に薄れつつあるように感じます。以前の進路指導は、生徒の希望に合わせるべく合格を第一の目的としていましたが、現在は合格へのモチベーションを維持させることが課題となっております。

進路意識の高揚に資する材料を的確に提供し指導していくことが、我々教師の責務であると考えています。

さて、昨年度は九州大学現役三名、同志社、立命館といった難関私大にも合格者を出すことが出来ました。九大に現役で二名以上合格したのは実に二十年ぶりです。これは、合格した生徒諸君の努力は勿論ですが、物心両面で学習環境を整えていただいた同窓会の皆様方のお陰であると感謝しております。

本年度の三年生は、二月末現在、西南大十名、福岡大四十四名の他、明治大、専修大等の関東及び同志社大、立命館大等の関西の大学にも合格が決まっています。さらに九州大学を始め、多くの国公立大学を受験しています。

今後とも同窓会の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 福岡山門会 総会のご案内

福岡山門会総会・懇親会

日時：平成十九年四月十四日(土)

午後二時半より

場所：博多都ホテル

(博多駅筑紫口そば)

〒812-0442 (四四) 四八九一

会費：男性七千円 女性六千円

問い合わせ先：BOJ(四八)三三三六

〒812-0442 博多都ホテル

福岡山門会(四七)七年卒

## 平成 18 年度卒業生 (平成 19 年 3 月卒業)

### 同窓会クラス役員

	男子	女子
1組	黒川 真典	今村 由香
2組	堀 大地	竹田 愛
3組	緒方 奨	木庭百合菜
4組	亀崎 寛明	田中 安器
5組	阿部 裕基	橋田 紋加

(学年代表は、1組の男女です)



平成 16 年度制定の山門高校エンブレム

清水山のさし車伝説がモチーフ

## 編集室より

本年の会報10号は、昭和五十九年卒の実行委員会編集いたしました。快く寄稿していただいた皆様御礼いたします。